

10 ともに回復した輸出・輸入

(貿易をとりまく世界経済の状況)

アメリカでは、2010年春から半ばまで、在庫積上げの動きが一服したことなどから、経済の回復テンポはやや鈍化したが、雇用環境の改善に伴う消費の拡大や新興国の需要拡大に伴う輸出の増加等により、10年秋以降、回復テンポは再び加速した。アジアでは、景気は内需を中心に拡大し、緩やかに回復した。中国では、10年の実質経済成長率が10.3%と、3年ぶりに10%を超える高い成長となった。EUでは、10年4月にギリシャ財政危機が発生し、各国で財政再建の取り組みが行われた。経済規模の大きいドイツでは輸出主導で景気が回復し、EU経済全体をけん引した。フランスでも内需を中心に緩やかに回復した。イギリスでは10年夏頃いったん持ち直したものの、冬頃から足踏み状態となっている。

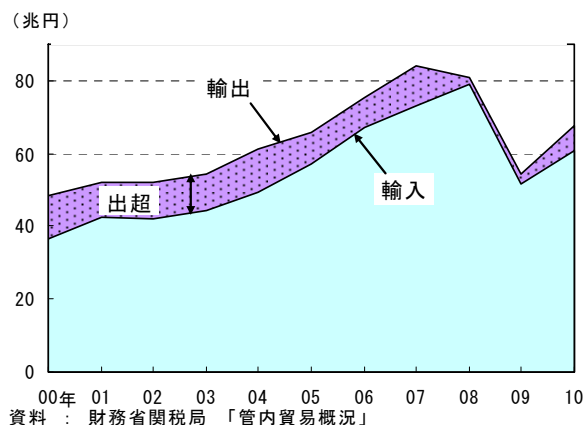
(全国の貿易概況)

2010年のわが国の経済は、10年夏まで、エコカー補助金・減税、家電エコポイント等の政策や猛暑の影響を受けた個人消費、輸出が景気の持ち直しをけん引してきた。秋に入り、アジア経済の回復テンポの鈍化に伴う輸出の弱含み、エコカー補助金終了に伴う自動車販売の減少から、景気は足踏み状態となり、鉱工業生産は9月以降に減少した。こうした背景の下、10年のわが国の貿易は、輸出額は自動車、半導体等電子部品などが増加し、前年比24.4%増となった。また、輸入額は原油及び粗油、非鉄金属などが増加したことから、前年比18.0%増となった。この結果、輸出入総額の差引額は前年より148.4%増となった。

なお、対ドルの円相場は09年93.54円から10年87.78円に、対ユーロの円相場は09年130.34円から10年116.28円に、ともに円高に動いた。

円高などにより、09年に10.5%低下した輸出物価指数(円ベース)は、10年も2.5%低下し、3年連続の低下となった。また、輸入物価指数(円ベース)は、09年は円高により25.3%低下したが、10年は原油価格の高騰などの影響を受け、7.0%上昇した(図表10-1)。

図表10-1 全国貿易額の推移

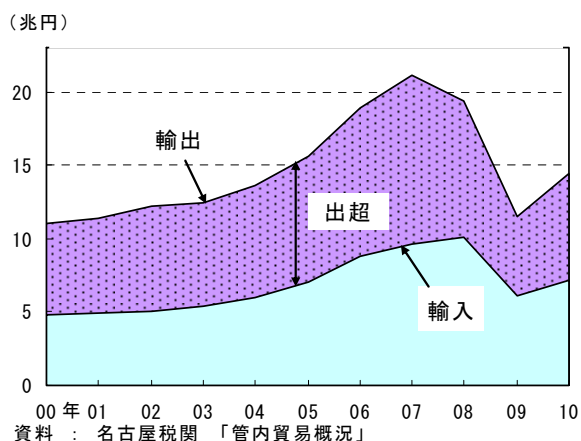


(名古屋税関管内の貿易概況)

このような状況の中で、名古屋税関管内の貿易額等の動向についてみると、2010年は自動車及び同部品の輸出が大きく増加し、輸出額は前年比26.2%増の14兆4611億円となった。税関別順位は、昨年に続き、成田空港、東京港を含む東京税関に次ぐ2位となった。輸出の増加率は全国を上回ったことから、全国シェアは前年の21.2%から21.5%に上昇した。輸入額は7兆1084億円に増加したものの、輸入額の全国シェアは前年の11.8%から11.7%に低下した。この結果、輸出、輸入を合わせた貿易額の全国シェアは前年の16.6%から16.8%に上昇した。

一方、輸出と輸入の差引額は7兆3527億円(前年5兆3783億円)の黒字(輸出超過)となった。全国の貿易黒字額(黒字税関計)に占める割合は、前年の59.5%から59.6%となった(図表10-2)。

図表10-2 管内貿易額の推移



(3年ぶりに増加した輸出)

2010年の管内輸出についてみると、景気の持ち直しにより、輸出総額は前年比26.2%増の14兆4611億円となり、3年ぶりの増加となった。

管内の輸出先を主要地域(国)別にみると、アジア向けは、自動車の部分品、自動車、金属加工機械などが増加したことから、同35.2%増と3年ぶりの増加となった。うち中国向けは、自動車の部分品、自動車、金属加工機械、科学光学機器などが増加し、同32.8%増と3年ぶりの増加となった。アメリカ向けは、自動車、自動車の部分品、原動機などが増加したことから同15.1%増となり、4年ぶりの増加となった。EU向けは、自動車の部分品、自動車、科学光学機器などが増加したことから、同14.9%増と3年ぶりの増加となった。中東向けは、自動車、自動車の部分品などが増加したことから、同23.6%増と2年ぶりの増加となった。

この結果、管内の輸出先の構成比は、アジア39.6%(前年36.9%)、うち中国15.5%(同14.7%)、アメリカ22.0%(同24.1%)、EU14.0%(同15.4%)、中東6.7%(同6.9%)、その他17.7%(同16.7%)となり、アジア(中国含む)のシェアが拡大し、アメリカ、EU、中東が縮小した。

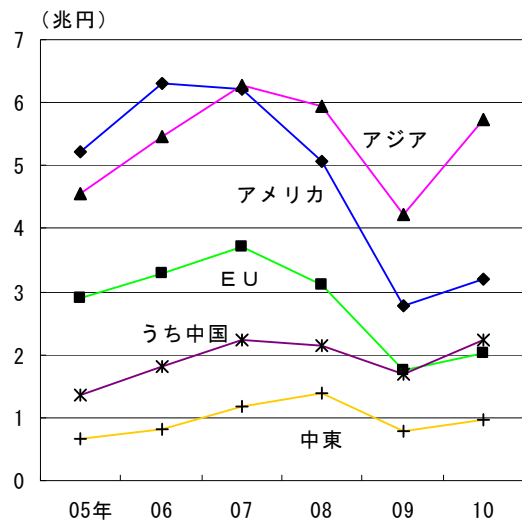
図表10-3 主要地域(国)別管内輸出額対前年増減率の推移

(単位: %)

年	アジア	うち中国	アメリカ	EU	中東
05	16.3	20.1	15.5	5.7	22.7
06	19.6	33.7	20.8	14.0	20.7
07	14.8	21.9	-1.4	12.1	44.3
08	-5.4	-4.0	-18.4	-16.0	20.3
09	-28.7	-21.1	-45.5	-43.5	-43.9
10	35.2	32.8	15.1	14.9	23.6

資料: 名古屋税関「管内貿易概況」

図表10-4 主要地域(国)別管内輸出額の推移



資料: 名古屋税関「管内貿易概況」

次に、主要品目別の動向をみると、輸出の主力である自動車は、海外経済の改善により、世界的な需要が回復したことを受け、大幅に伸び、輸出台数は255万台で前年比25.3%増、輸出額は4兆3664億円で同27.9%増と3年ぶりの増加となった。自動車の最大の輸出先であるアメリカ向けは、1兆3541億円で同8.5%増、EU向けは、5509億円で同12.0%増、アジア向けは、3686億円で同63.3%増とそれぞれ増加した。なお、10年の管内の自動車輸出額は、全国の自動車輸出額の47.6%(前年51.0%)を占めている。自動車の部分品は、海外における自動車の生産の増加などから、同28.0%増の1兆7285億円となった。このうちアジア向けは7887億円で同30.2%増、アメリカ向けは3327億円で同22.8%増、EU向けは2664億円で同38.3%増とそれぞれ増加した。ガソリンエンジンや船外機などの原動機は、アジア向けが同51.7%増、アメリカ向け同44.3%増、EU向け同9.8%増となり、全体では6971億円で同33.0%増となった。鉄鋼は、アジア向け同25.5%増、アメリカ向け同29.3%増、EU向け同19.6%増となり、全体では3804億円で同24.7%増となった。半導体等電子部品は、アジア向け同27.4%増、アメリカ向け同34.0%増、EU向け同21.8%増となり、全体では3649億円で同24.6%増となった(図表10-3、10-4、10-5、10-6)。

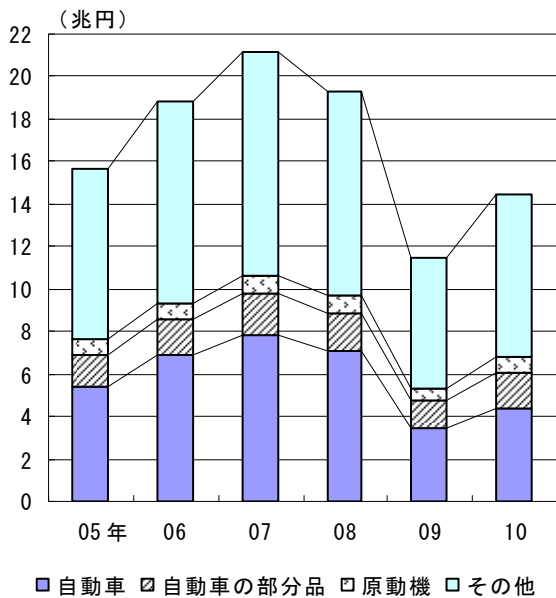
図表10-5 管内輸出主要品目の動向

(単位：億円、%)

順位	品名	2010年			前年 順位
		金額	対前年増減率	構成比	
1	自動車	43,664	27.9	30.2	1
2	自動車の部分品	17,285	28.0	12.0	2
3	原動機	6,971	33.0	4.8	3
4	鉄鋼	3,804	24.7	2.6	4
5	半導体等電子部品	3,649	24.6	2.5	5
	輸出総額	144,611	26.2	100.0	

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

図表10-6 主要品目別管内輸出額の推移



資料：名古屋税関「管内貿易概況」

(2年ぶりの増加となった輸入)

2010年の管内輸入についてみると、輸入総額は7兆1084億円となり、前年比16.9%増で2年ぶりの増加となった。

管内輸入額の主要地域(国)別内訳をみると、アジアは、音響・映像機器(含部品)、絶縁電線及び絶縁ケーブル、石油ガス類などが増加し、同18.6%増と3年ぶりに増加した。うち中国は、音響・映像機器(含部品)、アルミニウム及び同合金などが増加し、同16.2%増と3年ぶりの増加となった。中東は、主要品目である原油及び粗油、石油ガス類、アルミニ

ウム及び同合金などが増加し、同22.7%増と2年ぶりの増加となった。EUは、医薬品、航空機類、ポンプ及び遠心分離機、電気計測機器などが増加し、同1.5%増と3年ぶりの増加となった。アメリカは、航空機類、米、科学光学機器などが減少したことから、同5.3%減と、2年連続の減少となった。その結果、管内輸入地域(国)の構成比は、アジア48.7%(前年48.0%)、うち中国23.0%(同23.1%)、中東22.0%(同21.0%)、EU9.1%(同10.4%)、アメリカ6.8%(同8.3%)、その他13.4%(同12.3%)となり、アジア、中東のシェアが拡大し、アメリカ、EUが縮小し、中国はわずかに縮小した。

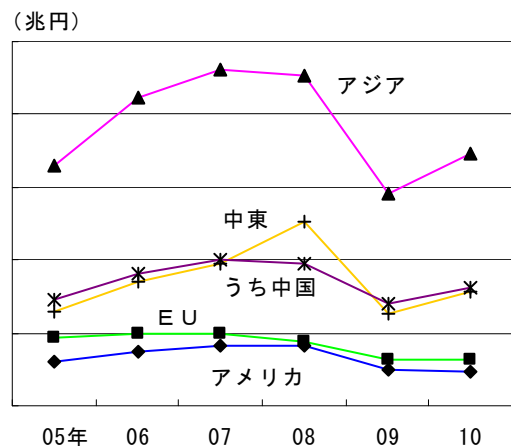
図表10-7 主要地域(国)別管内輸入額対前年増減率の推移

(単位：%)

年	アジア	うち中国	アメリカ	EU	中東
05	19.0	18.2	5.5	4.8	41.4
06	28.0	24.2	21.9	7.0	31.5
07	9.4	11.1	8.7	0.1	14.5
08	-1.9	-3.0	1.7	-12.0	30.2
09	-35.5	-27.9	-38.7	-27.4	-49.7
10	18.6	16.2	-5.3	1.5	22.7

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

図表10-8 主要地域(国)別管内輸入額の推移



資料：名古屋税関「管内貿易概況」

次に、主要品目別の動向をみると、原油及び粗油は、数量が前年比0.4%増と増加したことに加え、1バレル当たりの取引価格(平均通関価格)が前年の59.51ドルから79.34ドルと上昇したことにより、輸

入額は同26.0%増の1兆804億円となった。増減寄与度では3.7%となり、輸入増加額に占める寄与率は21.8%となった。石油ガス類は、数量が同6.5%増となり、輸入額は同21.2%増の8385億円となった。衣類及び同付属品の輸入額は2.5%減の2757億円となった。自動車は、輸入台数は10万台で同16.1%増、輸入額は2333億円で同1.3%増となった。

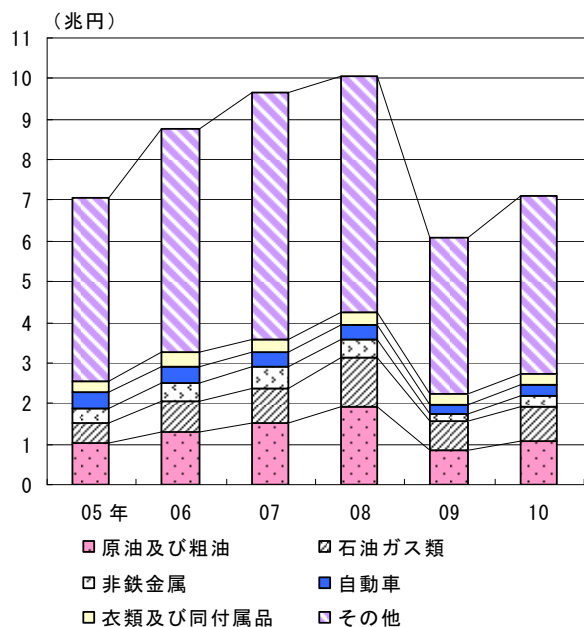
図表10-9 管内輸入主要品の動向

(単位：億円、%)

順位	品名	2010年			前年順位
		金額	対前年増減率	構成比	
1	原油及び粗油	10,804	26.0	15.2	1
2	石油ガス類	8,385	21.2	11.8	2
3	衣類及び同付属品	2,757	-2.5	3.9	3
4	アルミニウム及び同合金	2,367	66.7	3.3	7
5	自動車	2,333	1.3	3.3	4
輸入総額		71,084	16.9	100.0	

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

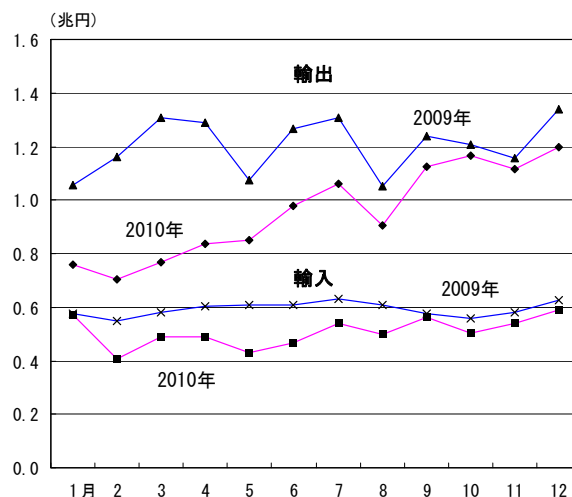
図表10-10 主要品目別管内輸入額の推移



資料：名古屋税関「管内貿易概況」

なお、管内の月別輸出額、輸入額の推移をみると、輸出額は、10年前半に前年同月を大幅に下回ったものの、世界的な景気の持ち直しを受け、自動車や自動車部品のアジア向け輸出が大幅に伸びたことから、次第に増加し、10～11月に前年同月との差が縮小した。輸入額は、10年2月にいったん落ち込んだ後、原油価格の上昇の影響を受け、緩やかに増加し、9月から12月にかけて前年同月との差が小さくなった(図表10-7、10-8、10-9、10-10、10-11)。

図表10-11 管内貿易額の月別推移

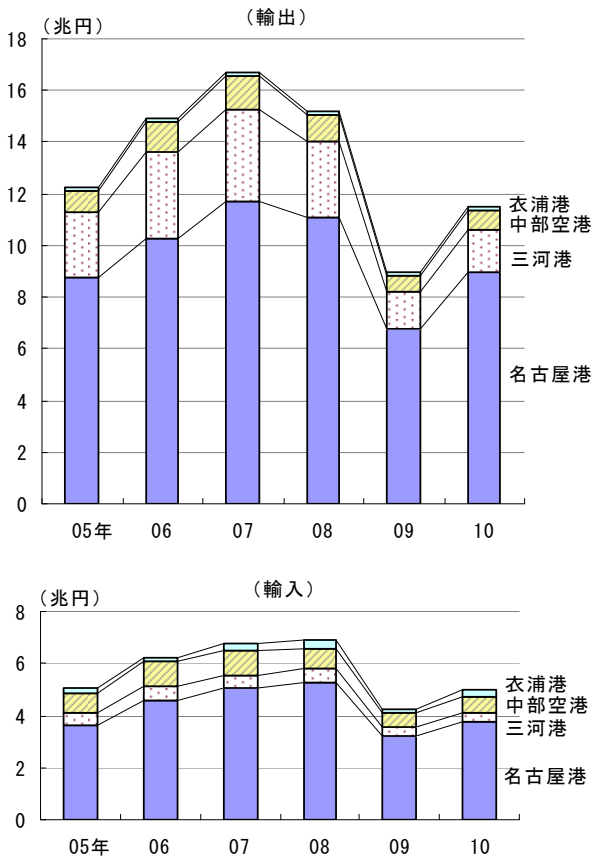


資料：名古屋税関「管内貿易概況」

(県内各港の輸出額、輸入額はともに増加)

管内貿易港11港のうち、県内には名古屋港、三河港、中部国際空港、衣浦港の4港がある。2010年の輸出額は、4港合計で前年比28.6%増の11兆4970億円となった。貿易港別にみると、輸出額は、最大港の名古屋港で自動車、自動車の部分品、金属加工機械などの輸出が増加したことから前年比32.1%増で3年ぶりの増加となり、また05年2月に開港し、名古屋空港時代より大きく輸出額を伸ばした中部空港も同16.4%増で3年ぶりの増加となるなど、4港とも増加した。輸入額は、原油及び粗油、石油ガス類、アルミニウム及び同合金などが増加し、同16.2%増の4兆9581億円となり、2年ぶりの増加となった。

図表10-12 県内港の貿易額の推移



県内最大貿易港である名古屋港の輸出額は8兆9398億円で前年比32.1%増と3年ぶりの増加となった。輸入額は3兆7705億円で同17.4%増となった。名古屋港の10年の輸出品では、輸出額全体の42.2%を占める自動車と自動車の部分品、ほかに金属加工機械などが増加した。輸入品は、石油ガス類、原油及び粗油、アルミニウム及び合金などが増加した。

なお、名古屋港は国内5大港（東京港、横浜港、名古屋港、大阪港、神戸港）の一つで、10年の輸出額は、海港では12年連続でトップとなり、わが国輸出額の13.3%を占めている。また輸入額は、海港では東京港に次いで第2位となり、わが国輸入額の6.2%を占めている。

図表10-13 県内港・国内五大港・主要空港の貿易額 (2010年)

輸出 (単位：億円, %)				
順位	港名	輸出額	対前年増減率	全国比
1	成田空港	103,412	24.6	15.3
2	名古屋港	89,398	32.1	13.3
3	横浜港	71,026	29.0	10.5
4	神戸港	51,543	21.6	7.6
5	東京港	46,068	26.4	6.8
6	関西空港	42,623	18.2	6.3
7	大阪港	32,563	21.7	4.8
8	三河港	16,761	18.6	2.5
16	中部空港	7,403	16.4	1.1
44	衣浦港	1,407	9.9	0.2
全国計		673,996	24.4	100.0
県内港計		114,970	28.6	17.1

輸入 (単位：億円, %)				
順位	港名	輸入額	対前年増減率	全国比
1	成田空港	98,693	16.2	16.2
2	東京港	75,273	13.2	12.4
3	名古屋港	37,705	17.4	6.2
4	大阪港	37,620	15.1	6.2
6	横浜港	32,333	17.8	5.3
7	関西空港	27,040	15.8	4.4
8	神戸港	24,042	7.0	4.0
19	中部空港	6,258	8.0	1.0
31	三河港	3,529	11.6	0.6
42	衣浦港	2,088	28.9	0.3
全国計		607,650	18.0	100.0
県内港計		49,581	16.2	8.2

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

図表10-14 名古屋港貿易額の主要品目別・国別 対前年増減率・構成比 (2010年)

品目別 (単位：%)					
輸出			輸入		
品目名	対前年増減率	構成比	品目名	対前年増減率	構成比
自動車	38.1	27.3	石油ガス類	27.6	12.2
自動車の部分品	29.4	14.9	原油及び粗油	28.6	8.4
原動機	30.3	5.5	衣類及び同付属品	-5.9	6.4
金属加工機械	80.6	3.4	アルミニウム及び合金	66.3	5.9
鉄鋼	27.2	3.0	絶縁電線及び絶縁ケーブル	33.7	3.2

国別 (単位：%)					
輸出			輸入		
国(地域)名	対前年増減率	構成比	国(地域)名	対前年増減率	構成比
中国	37.8	17.8	中国	14.3	33.2
アメリカ	24.8	13.9	サウジアラビア	28.9	7.0
タイ	55.8	6.1	アメリカ	-6.9	6.9
オーストラリア	26.3	4.9	カタール	60.5	6.9
台湾	29.0	3.5	オーストラリア	38.4	5.2

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

名古屋港に次いで輸出額の多い三河港は、2010年の輸出額が前年比18.6%増の1兆6761億円となった。三河港の輸出額の94.2%が自動車であり、また、輸出先はアメリカが72.0%を占めている。輸出先は他に中国が増加した。

一方、輸入額は同11.6%増の3529億円となった。輸入額のうち自動車が64.3%を占め、また、主な輸入元はドイツ、韓国、中国などとなっている。なお、三河港の自動車輸入額は、全国の38.1%を占めている。

図表 10-15 三河港貿易額の主要品目別・国別
対前年増減率・構成比 (2010年)

品目別 輸出		輸入 (単位：%)			
品目名	対前年増減率	構成比	品目名	対前年増減率	構成比
自動車	20.9	94.2	自動車	2.3	64.3
船舶類	-44.2	1.0	鉄鋼のフラットロール製品	42.8	6.5
鉄鋼のくず	-26.3	0.7	原油及び粗油	78.3	3.3
石油製品	16.0	0.5	絶縁電線及び絶縁ケーブル	45.1	3.0

国別

輸出		輸入 (単位：%)			
国(地域)名	対前年増減率	構成比	国(地域)名	対前年増減率	構成比
アメリカ	9.2	72.0	ドイツ	-15.7	36.7
中国	73.0	5.0	韓国	22.5	10.3
カナダ	-9.0	4.9	中国	54.1	8.3
ベルギー	36.8	2.0	インドネシア	27.2	6.0

資料：財務省「貿易統計」

中部空港の10年の輸出額は、前年比16.4%増の7403億円、輸入額は同8.0%増の6258億円となった。主な輸出品では、半導体等電子部品、電気回路等の機器などが増加し、主な輸入品では、医薬品などが増加し、輸入元では中国などが増加した。

図表 10-16 中部空港貿易額の主要品目別・国別
対前年増減率・構成比 (2010年)

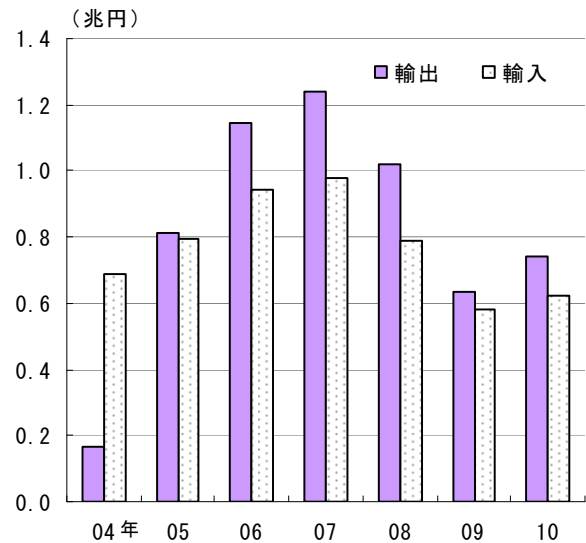
品目別 輸出		輸入 (単位：%)			
品目名	対前年増減率	構成比	品目名	対前年増減率	構成比
半導体等電子部品	12.8	25.4	有機化合物	-9.6	15.5
電気回路等の機器	39.3	7.3	医薬品	16.7	11.4
電気計測機器	108.8	5.7	音響・映像機器(含部品)	25.1	6.4
科学光学機器	24.5	4.7	半導体等電子部品	118.4	5.5

国別

輸出		輸入 (単位：%)			
国(地域)名	対前年増減率	構成比	国(地域)名	対前年増減率	構成比
中国	1.8	17.4	中国	27.8	20.6
アメリカ	41.1	15.9	アメリカ	-20.3	13.4
マレーシア	30.8	11.4	プエルトリコ	4.2	8.8
韓国	29.4	7.5	アイルランド	-7.3	8.5

資料：財務省「貿易統計」

図表 10-17 名古屋空港～中部空港 貿易額の推移



資料：名古屋税関「管内貿易概況」

注：中部空港は05年2月に開港。04年は名古屋空港の数値

衣浦港の10年の輸出額は、前年比9.9%増の1407億円、輸入額は同28.9%増の2088億円となった。主な輸出品では、航空機類、鉄鋼のフラットロール製品などが増加し、また、主な輸入品では、石炭、石油ガス類などが増加した。輸入元ではオーストラリアが1/4を占めている(図表 10-12、10-13、10-14、10-15、10-16、10-17、10-18)。

図表 10-18 衣浦港貿易額の主要品目別・国別
対前年増減率・構成比 (2010年)

品目別 輸出		輸入 (単位：%)			
品目名	対前年増減率	構成比	品目名	対前年増減率	構成比
管及び管用継手	5.7	49.9	石炭	42.7	45.9
航空機類	14.5	19.7	石油ガス類	40.1	17.6
鉄鋼のフラットロール製品	92.5	13.9	とうもろこし	2.5	13.9
鉄鋼のくず	-33.3	8.1	パルプウッド等	2.2	4.2

国別

輸出		輸入 (単位：%)			
国(地域)名	対前年増減率	構成比	国(地域)名	対前年増減率	構成比
アメリカ	9.0	33.8	オーストラリア	26.2	25.7
韓国	15.8	21.8	インドネシア	45.9	21.8
中国	-33.9	9.2	アメリカ	14.5	18.0
シンガポール	35.2	5.0	アラブ首長国連邦	147.9	5.8

資料：財務省「貿易統計」